



令和3年度 第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

いなべ地域の在宅医療・介護連携推進事業は、事業開始から今年で8年目を迎えましたが、消防本部との取り組みは初めての試みとなりました。コロナ禍だからこそ求められる取り組みを進めるにあたり、今回の消防本部との企画は、そのスタートにふさわしいテーマとなりました。

～実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part9～

日時:令和3年7月15日(木)18:30～20:00

開催方法:Webexによるオンライン研究会

参加者:いなべ地域の医療・介護専門職 90名

1. 講演

『いなべ地域の救急の現状と課題』

桑名市消防本部 消防救急課 課長補佐

消防司令／救急救命士 伊藤 誓敏 氏

内容:・いなべ・東員地域の救急現状

・課題と今後の取り組みについて

・桑名市「緊急時の情報連絡票」の取り組み紹介



2. 情報提供

『地域における救急医療情報の活用について』

○いなべ市救急医療情報「おたすけ箱」について

いなべ市地域包括支援センター 乙部大輔さん

対象:75歳以上の独居の方、

75歳以上の高齢者世帯で希望する方、
民生委員が必要と判断した方。

実績:令和2年度末までに累計 1644 世帯に配付



いなべ市事業のパフレット

○東員町救急医療情報キットについて

東員町健康長寿課 仲田多恵さん

対象:東員町にお住いの65歳以上の方又は障がいのある方

実績:令和2年度末までに累計 1501 件の配布

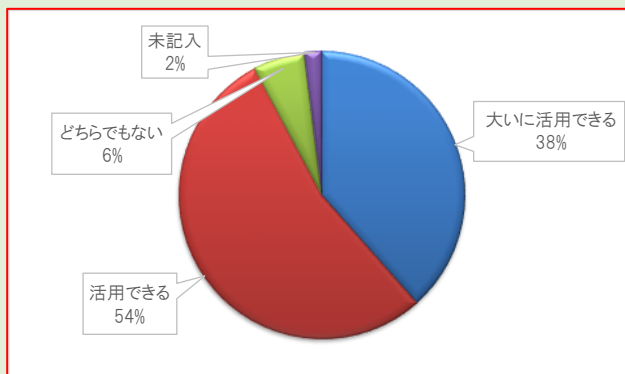


東員町で配布するキット

3. 意見交換会(参加者全体)

アンケート結果

＜研修内容について今後の業務に活用できますか？＞



・救急の流れや活用の仕方が分かりやすく、また地域の現状も知ることができたので、今後の業務でいかしていけたらと思います。(社会福祉士)

・普段、お話を聞く機会がなかったので、大変参考になりました。お互いの状況や事前に取り決めがあれば、無駄をはぶいた対応になることが分かり、今迄も情報共有が必要と感じました。(行政職員)

・地域医療の推進に非常に効果が持てるのではと期待できそうです。入所施設の救急対応も変わってくる？情報を紙で渡すことがルール化すると情報連携がスムーズになる。(介護支援専門員)

・特養勤務の看護師です。緊急時の情報連絡票は、ぜひ準備させて頂こうと思いました。(看護師)

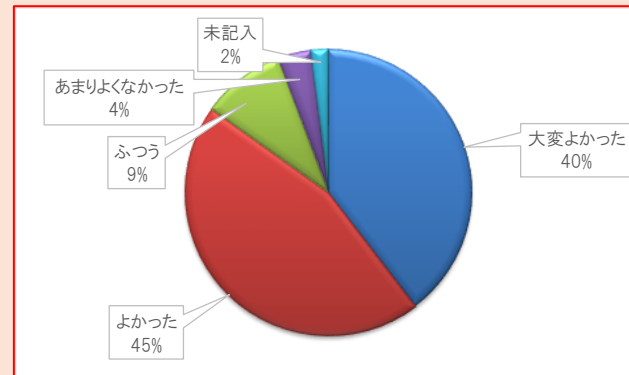
・老健における救急搬送について今後も迅速に行えるように検討していきたい。(理学療法士)

・可能であれば終末期ケアの情報を共有して DNAR 対応の意思統一が図れるように出来たら良いかなと思います。(消防職員)

・それぞれ組織「内」での「縦」のつながりは、確立されていると思いますが、新しいことに取り組んでいくには、組織「間」の「横」のつながりが、不可欠だと思います。それぞれの組織の現状と課題を周知できて良かったと思います。(消防職員)



＜意見交換会について＞



・いなべ市・東員地域の救急現状や課題を聞くことができ、救急の現場で働く救急隊員の意見はとても参考になりました。(社会福祉士)

・それぞれの立場により、意見が分かれてしまうのは仕方がない事ですが、でも、それぞれがお互いの立場になった意見交換が出来ていて、とても心強いと思いました。(介護支援専門員)

・脳卒中ホットライン等について知ることができました。在宅医療と救急要請についての現状と課題についても知ることができました。(看護師)

・消防本部と地域の課題が知られる機会となったのが良かった。(MSW・PSW)

・救急搬送時、施設、消防、病院と情報が連携できるといいなと思いました。(看護師)

・コロナが終息して通常の研究会に早く戻ることを願います。今回参加して、Web の討議は難しいと感じました。(医師)

消防本部の方の講演より、いなべ地域の救急の現状共有ができました。今後は消防の方にも研究会にご参加頂き、連携を深めていきたいと思っています。今回紹介された桑名地域の「緊急時の情報連絡票」を参考に今後はいなべ地域での活用を検討していく予定です。